

第1分科会

【演題等】「ひょうご不登校対策プロジェクト」

～学校・地域・支援関係機関・教育行政が相互に連携した総合的な支援～

【講演・発表者】

兵庫県教育委員会事務局義務教育課

主任指導主事兼主幹

酒井 亮

主任指導主事

藤本 晋平

・発表概要

1 兵庫県の不登校児童生徒の状況

- ・平成27年度から小中学校ともに8年連続で増加。

2 これまでの本県の取組

- ・SC配置（小：143、中：全校）、SSW配置（全166中学校区）

- ・ひょうごっ子悩み相談、SNS悩み相談（通年：R元～）

- ・関連施設、民間施設との連携

- ・ひょうご不登校対策事業（R2～）、ひょうご不登校対策プロジェクト（R5～）

3 令和6年度の本県の取組

- ・不登校児童生徒支援員の配置・拡充を支援
- ・ハートフレンド人材バンクの創設、アウトリーチ支援研究委員会の設置
- ・不登校相談会の開催や関係機関等を周知するチラシの配布



・発表要旨

1 兵庫県の不登校児童生徒の状況

(1) 不登校児童生徒の状況

- ・小、中学校とも在籍者数に対する不登校児童生徒数の割合が全国を上回っている。

(2) 学校内外の専門機関等で相談、指導を受けた状況

- ・「民間団体、民間施設」で相談、指導を受けた児童生徒数は増加傾向にあり、学校と関係団体との連携が進んでいる。

(3) 指導の結果、登校する又は登校できるようになった児童生徒数

- ・登校できるようになった児童生徒数の割合は、小学校に比べ中学校の方が高い。

2 これまでの本県の取組

(1) 未然防止の取組

- ・不登校未然防止リーフレットの配布（H31.3）

(2) 早期発見、早期対応の取組

- ・ひょうごっ子悩み相談、SNS悩み相談（通年：R元～）

(3) 関連施設、民間施設との連携

- ・但馬やまびこの郷の設置、運営（H8～）

(4) ひょうご不登校対策事業（R2～）

- ・報告書「令和4年度ひょうご不登校対策事業研究協力校 実践事例報告」（R5.3）
- ・リーフレット「不登校対策の充実に向けて」を配布（R5.3）

- (5) ひょうご不登校対策プロジェクト
 - ・ひょうご不登校対策推進協議会、ひょうご不登校対策推進委員会を設置
- (6) 不登校対策の取組及び周知
 - ・知事記者発表「ひょうご不登校対策プロジェクトの拡充」(R5.12/26)
 - ・知事記者発表「ハートフレンド人材バンクの学生募集」(R6.1/29)

3 令和6年度の本県の取組

- (1) 不登校児童生徒支援員の配置・拡充を支援
 - ・「心の健康観察」の導入検討委員会、心の健康観察ストレスチェック評価研究会の設置
- (2) 学生(ハートフレンド)人材バンクの創設、アウトリーチ支援研究委員会の設置
 - ・教職、心理、社会福祉等、教育に関わる課程を履修し、不登校児童生徒等への支援に意欲、関心が高い学生(大学、大学院生)を募集
- (3) 不登校相談会の実施
 - ・多様な学びの場を探されている保護者及びその児童生徒を対象に実施。
- (4) 関係機関等を周知するチラシ等の作成、配布
 - ・不登校に関する相談窓口等を紹介するチラシを作成し、全小中学校保護者、公民館、支援関係機関、図書館、市町の教育支援センター等へ配布

・質疑応答の概要

1 これまでの本県の取組

- Q1: 但馬やまびこの郷は、個人または学校どちらから申し込みをするのか。
A1: 個人で申し込みをする。
- Q2: 宿泊を伴うためハードルが高いように感じるが、どのように対応しているのか。
A2: 保護者と事前に打ち合わせをし、参加できるかどうかの確認をする。
- Q3: やまびこの郷タイムのファシリテートは誰がするのか。
A3: 基本的にスタッフが対応する。
- Q4: プログラムは参加者全て同じ内容なのか。
A4: 参加者一人ひとりにスタッフがおり、参加者に応じて全体のプログラム又は個に応じた活動が選択できるようにしている。
- Q5: 参加者はどのようにして、但馬やまびこの郷を知ったのか。
A5: 学校の先生からの紹介が多い。

2 ひょうご不登校対策プロジェクト

- Q6: ①学生(ハートフレンド)の報償費は、どのようになっているか。
②児童生徒がチェックシートを正直に書いてくれない可能性もあるのでは。
A6: ①学生のニーズに合わせて対応するため、一律ではない。
②児童生徒が、正直にチェックシートを書けるような雰囲気作りが大切。
- Q7: チェックシートは今後どのようにフィードバックするのか。
A7: 心の健康観察導入検討委員会で検討していく。